

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年6月29日(2006.6.29)

【公表番号】特表2005-521398(P2005-521398A)

【公表日】平成17年7月21日(2005.7.21)

【年通号数】公開・登録公報2005-028

【出願番号】特願2003-579743(P2003-579743)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	35/76	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	35/76	
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 P	35/00	
C 1 2 N	5/00	B

【手続補正書】

【提出日】平成18年3月23日(2006.3.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ウイルスベクターを第1細胞に導入することによって、第1細胞と第2細胞との融合を惹起する方法に用いる組成物であって、絶対後期ウイルスプロモーターにより発現調節される膜融合性膜糖タンパク質をコードする発現力セットを含むように組み換えられた、膜融合性かつ腫瘍溶解性の単純ヘルペスウイルスベクターを含む組成物。

【請求項2】

上記第1細胞、上記第2細胞、または上記第1細胞と上記第2細胞の両方が、悪性細胞である、請求項1の組成物。

【請求項3】

上記悪性細胞が固形腫瘍内にある、請求項2の組成物。

【請求項4】

上記悪性細胞がヒトの体内にある、請求項2の組成物。

【請求項5】

上記導入が、さらに、上記ベクターを上記ヒトに送達することと定義される、請求項4の組成物。

【請求項6】

上記ベクターが条件付き複製可能型単純ヘルペスウイルスベクターである、請求項1の組成物。

【請求項7】

上記ウイルスベクターは、膜融合性膜糖タンパク質を発現するように組み換えられる前に細胞培養物に感染させた時、膜融合性を示すことができる、請求項1の組成物。

【請求項 8】

上記絶対後期ウイルスプロモーターが、HSVのUL38またはUs11のプロモーターである、請求項1の組成物。

【請求項 9】

ウイルスベクターを細胞に導入することによって悪性細胞を破壊する方法に用いる組成物であって、絶対後期ウイルスプロモーターにより発現調節される膜融合性膜糖タンパク質をコードする発現力セットを含むように組み換えられた、膜融合性かつ腫瘍溶解性の単純ヘルペスウイルスベクターを含む組成物。

【請求項 10】

上記悪性細胞がヒトの体内にある、請求項9の組成物。

【請求項 11】

上記導入が、さらに、少なくとも約 1×10^9 プラーグ形成単位 (pfu) の上記ベクターを上記ヒトに投与することと定義される、請求項9の組成物。

【請求項 12】

上記方法が、上記ヒトに付加的癌治療を施すことをさらに含む、請求項9の組成物。

【請求項 13】

上記ウイルスベクターは、膜融合性膜糖タンパク質を発現するように組み換えられる前に細胞培養物に感染させた時、膜融合性を示すことができる、請求項12の組成物。

【請求項 14】

悪性細胞を持っている個体における腫瘍抗原提示を増加させる方法に用いる組成物であって、絶対後期ウイルスプロモーターにより発現調節される膜融合性膜糖タンパク質をコードする発現力セットを含むように組み換えられた、膜融合性かつ腫瘍溶解性の単純ヘルペスウイルスベクターを含む組成物。

【請求項 15】

上記腫瘍抗原提示の増加が、上記腫瘍抗原提示の増加が存在しない場合と比較して、上記個体における抗腫瘍免疫を向上させる、請求項14の組成物。

【請求項 16】

上記送達は、腫瘍内への注入を含む請求項5の組成物。

【請求項 17】

上記ウイルスベクターは、膜融合性膜糖タンパク質を発現するように組み換えられる前に細胞培養物に感染させた時、膜融合性を示すことができる、請求項14の組成物。

【請求項 18】

上記膜糖タンパク質が、パラミクソウイルスFタンパク質、HIV gp160タンパク質、SIV gp160タンパク質、レトロウイルスEnvタンパク質、エボラウイルスGp、単純ヘルペスウイルス糖タンパク質、またはインフルエンザウイルス赤血球凝集素である、請求項17の組成物。

【請求項 19】

細胞培養物に感染させた時、膜融合性を示すことができる、膜融合性かつ腫瘍溶解性の単純ヘルペスウイルスベクターであって、絶対後期ウイルスプロモーターにより発現調節される膜融合性膜糖タンパク質をコードする発現力セットの導入によって組み換えられたウイルスベクター。